

諫早市教育委員会議事録

令和4年第10回（8月定例）

令和4年第10回（8月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年8月24日（水）
15時30分～16時40分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 8-2会議室
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 5 議題
教育長の報告

議事録署名人の指名

山口委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和4年第8回（7月定例）教育委員会の議事録について
小野委員から自身の発言について修正の意見あり
一部修正を了承の上可決

令和4年第9回（8月臨時）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長等の報告の要旨

《教育長の報告》

教育委員会の8月の動きについて

初めに、安心安全な学校生活ということで、新型コロナウイルスの月別感染者数である。4月は小学校が184名、5月152名、6月163名、7月337名、8月574名、これは8月22日段階の集計なので8月が最も多いということが言える。

中学校は4月89名、5月38名、6月40名、7月78名、8月199名で、8月は23日、24日にも、非常に多くの感染者が報告されているので、さらに増えると考えられる。

学校の感染対策については、今、夏休み中であるが中学校では始まったところもあり、マスクの着用や換気の徹底などをしてもらうようにしている。9月の議会で、国の補助金を使って学校へ非接触型水栓を設置するための補正予算を諮るようにしている。一つは密を避けるということ、また、蛇口に触れずにすむので非常に衛生的であるということ、もう一つは、節水にもつながるということであ

る。

次に、夏休み中においては子供の事故ゼロを目指している。本日まで、子供たちの事件事故は起こっていない。ずっと事故ゼロであってほしいと思っている。また、部活動であるが、熱中症に注意しながら、練習および試合に励んでいるという報告を受けている。

二つ目、市立中学校講師の逮捕事案ということで、このことについては大変申し訳なく思っている。資料の内容は新聞でも報道されているが、この講師については、昨年4月8日付けで県が任命する県費負担教職員として採用され、臨時的任用教員として配置されている。雇用条件の中には、地方公務員法の適用を受けるので非行がないようにということも含んでの採用であったのだが、大変申し訳なく思っている。

逮捕日時は8月17日午前9時47分、これを受け時津警察署から任命権者である県の教育委員会を経て、諫早市教育委員会に連絡があり、学校長にも連絡を行った。この講師は、担任はしておらず、部活動も副顧問であった。

逮捕された内容は、A男という当時14歳が18歳に満たない児童であることを知りながら、現金を供与して児童買春を行ったということである。これについては、児童買春・児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律違反第2条第2校第1号が適用となる。子供の心と体を傷つける重大な不祥事を起こしたということで、被害を受けられた中学生、保護者、そして関係される方々、市民・県民に心からお詫びをしたい。

毎月、校長会と副校長・教頭会に出席し、その都度不祥事防止については、臨時的任用教職員も絶対にならないように、ということで話をしており、もちろん校長先生方も、すべての教職員に対して校内で研修や話をされたり、また、いろいろな取り組みをされたりしているが、それが届かなかったということで、大変残念に思っているところである。

当該中学校においては、その2日後に保護者会を実施して生徒のケアにあたった。しかし、子供たちの中にはショックを受けている子供もいるかもしれないので、学校においてよく観察をしていただいて、スクールカウンセラー等が必要であれば派遣するように、また、心の教室相談員による対応も同時に行っていきたいと考えている。

そして、臨時の校長会を8月19日に開催し、私と学校教育課長から事件の概要と、言うまでもないことであるが、教職員と子供たちは信頼関係で成り立っているという話をした。また、校長先生に

は、今までの集大成という話をしていただきたいというようなことも伝えた。そして、その後、小中学校の校長先生方が各中学校ブロック単位に集まって、どのような対応を行っていくのかということと、根絶に向けたいろいろなことについて話をいただいた。信頼回復に努めていく。

続いて、北諫早幼稚園を休園して諫早幼稚園と統合する件について、9日の保護者会、10日の市議会教育厚生委員会で説明を行った。また、現在、北諫早幼稚園で該当する園児の保護者対象にアンケートを実施している。それを受けて9月上旬に北諫早幼稚園の保護者が諫早幼稚園を見学する予定になっている。その後、保護者の了解を得た後に、市議会の全員協議会で議員へ報告したいと考えている。

次に、夏季休業中の教員研修ということで、四つ挙げている。一つは Google for Education (グーグル フォー エデュケーション) 研修で、いわゆる ICT 研修を4日間行った。小学校91名、中学校46名、計137名、全部の小・中学校から先生方に参加してもらった。今までは、主に ICT の活用ということで伝達形式だったが、今回は3～4人のグループを作って、ICT を使ってどういう授業を行うかという、一歩進んだ実践研修を行った。学校に戻ってその成果を広めていただきたい。

二つ目は、教育長との懇談会であるが、全ての小・中学校の副校長および教頭先生方46名に参加していただいて、小学校4グループ、中学校は2グループ、計6グループを午前と午後に分け、テーマを学力向上に絞って各学校どんな取り組みをしているか、また、どういうことをすれば学力は上がるのかという会議を行った。非常に辛辣なテーマではあるが、私にとっては、今までの学力向上についての経験を話をさせていただいて、いろいろな仕掛けをする手立てになって良かったと思う。そして、その中で出た意見や私のコメントをまとめた成果物を作り、副校長・教頭先生が参考にできるように、学校の校長先生あてに送付している。成果が期待できるのではないかと思っている。

それから、初任者研修を8月22日に行った。市内の小・中学校の初任者24名、大村も同じ24名の初任者がいるが、初任者研修は大村と諫早と一緒にしている。大村、諫早で交代に行っているのだが、今回は諫早で行った。そのときに、研究主任、これは諫早市内だけであるが、小・中学校の研究主任が各校1名全42名いるので、全部の学校から参加してもらい、研究主任と初任者が一緒に研修するという、今までにない研修を行った。初任者の授業の指導

案を研究主任が見て、いろいろなアドバイスをしたり、いろいろな話を聞いたり、小学校ごと、中学校ごとのグループで行い、活性化の一つになった。

初任者だけであれば、みんな同じくらいのレベルなので一定のレベルで終わってしまう。ところが、研究主任というのは、学校において授業を作る上で中心的な存在なので、そこから刺激をもらうことができ、初任者も非常に勉強になったという感想を持っていた。また、研究主任も、初任者からいろいろ質問されるので、一生懸命答えなければならず、勉強になった、初心に帰れたという印象深い感想があがっていた。以上が私の報告である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

北諫早幼稚園の件で、前回の会議の時に、歩いて行ける方がいた場合どうするのかという話が出ていたと思うが、実際どうであったか。

[教育総務課長]

歩いて行ける方はおられた。そういう方については、市で送迎の車を用意して送迎することも考えているということを説明している。

[委員]

幼稚園の関係で、保護者へのアンケートはどのような内容なのか。

[教育総務課長]

保護者会の説明会で9日に諫早、北諫早幼稚園それぞれで行った。諫早幼稚園は受け入れる方なので、意見は少しであった。北諫早幼稚園の方は、やはり閉めるという話なのでいろいろな意見が出た。結構、強い思いで意見を言われる方が何人もおられた。ただ、その場で意見を言えなかった方もいるかもしれないので、そういう方たちの率直な意見も聞きたいということで、北諫早幼稚園でアンケートをとるようにしている。回収はこれからになるが、いろいろと不安に思われる部分があると思うので、できるだけ不安を解消できるように対応していきたい。

[委員]

移行はなるべくスムーズに進めてほしい。

[委員]

まず、教員研修に関して、仕掛け作りがなされており、とても素晴らしいなと思ってお聞きした。その中でも「秘策を練った」という言葉は心がワクワクした。研修内容について資料にまとめられているという話であったが、教育長がその秘策の中でも1、2を争う

いい秘策だと思われることを紹介してほしい。

[教育長]

学力テスト、全国と県学力テストがあるけれども、一般的にそのための勉強をしているという捉え方をされていて、そのテストの点数を上げるため勉強なのかと思われるのだが、学力テストはすごくいい問題になっている。学習指導要領に沿って一生懸命にしていれば、ここにたどり着かないといけないというような問題が出ていて、直結している。何も受験のためとか、点数を上げるためとかいうのではなく、学習指導要領を読み込んで、今必要とされる授業をすることが、子供たちの学力の向上になる。特に、思考力は大事で、いろいろな統計を見て、判断して、分析する。我々が社会に出た時に、説明をする表現力なども問われているので、授業の中で行う必要があるということである。

前回の会議でも話をしたと思うが、諫早の子供たちの点数が少し低いのは、無答率が多いということがある。私が副校長、教頭先生方に伝えたのは、無答率は学校で答案を集める時に分かる。採点をしなくても、後の方の問題の解答を書いていないというのは分かる。だから、そこですぐに対策をしなければいけないのではないかとということである、つまり、全国や県の分析がされて、平均点が来てから初めて自分の学校の分析をするのではなく、自分の学校の子達が後の問題を全然解いていない、何故だろうと。そこですぐに対策を練ってくださいという話をした。厳しく言うと、「分析が遅い。無答率の高さは当日判明していたはず。答案を見て、その時から対策を打つ」ということである。

[委員]

もう1点、部活動のことにに関して、報告とは直接関係ないが、先月の委員会の時に、その後部活動を地域に移行する準備の話し合いが行われるとお聞きしたが、その中で具体的な話はあったのか。

[学校教育課長]

6月の初旬に県の体育保健課が、部活動の地域移行について説明に来たので、中学校の担当校長や市教委の担当で話を聞いた。それを受けて、7月の下旬に関係者で今後どのように進めていくかという方向性について確認を行った。更に、その会議を受けて8月2日の校長会で、部活動が関係する中学校の校長先生方に、部活動の地域移行について協議をしてもらい、そこでの意見を取りまとめているところである。そして、来月9月6日に再度県の方から説明があるので、県の説明と校長会の内容も踏まえた上で、検討委員会で協議し、今後、諫中市としてどのようにしていくかというこ

とを決めていきたい。

[教育長]

私の方からも委員へお聞きしたい。コロナ感染拡大のピークはまだであると思うか。

[委員]

ピークは過ぎたのではないだろうか。先週はお盆で感染者が多かったが、今は少し落ち着いてきていて、おそらくピークは過ぎているのだろうと思う。7月までは県央保健所管内の感染者の数は、10代未満と10代が成人より多かった。しかし、8月になってからは10代未満及び10代と、20代、30代、40代が、ほぼ同じか、やや成人が多いぐらいの傾向である。8月は夏休み中なので、部活や学童で広がるのは仕方ないが、夏休み中であるにもかかわらずこれだけ増えたということは、子供が感染の中心ではなかったと言えらる。

予防接種の接種率が低いことが感染拡大の一因と思われる。3回目の接種率と感染者数は逆相関している。20代、30代、40代の3回目接種率が低い。一方、年をとられた方は打っているので感染が明らかに少ない。しかも、4回目も摂取している。

オミクロンが流行ってきた時も、結局3回目の接種のタイミングが遅れた。去年も予防接種のタイミングが遅れていたのだが、夏場に若い20代、30代の多くが予防接種を打ったので、その効果により9月には収まった。今度は予防接種の接種率が伸びていないのでなかなか収まらず、それなりの感染者数までいくのではないか。

[委員]

保育園で2回罹ったという子が少し出ている。2回罹っても、ワクチンは打った方がよいのか。

[委員]

ワクチンに関しては、2回罹っていても打った方がよいと思う。日曜日に九州学校保健会があり、長崎大学の森内先生がHPVワクチンと新型コロナワクチンのことでお話をされたが、発症予防効果はそれほどない。接種して一番効果がある時でも3割から4割の間である。しかし、外国のデータでは入院等を抑える効果は7割ぐらいある。だから、流行を抑えるためにということで子供たちに一生懸命打ったとしても、発症予防効果は期待できない。5～11歳のワクチンは接種後にほとんど熱も出なくて腕が痛くなるぐらいである。副反応がほとんどないということも分かっているから、重症化の予防効果があるから努力義務となったので、打った方がよいと思う。

[委員]

罹ってからどれぐらいあけて、打った方が良いのか。

[委員]

森内先生も厚労省も3カ月あけてとしている。1ヶ月以上あけて打つ分にはよいのではないかと思うが、特に決まりはない。感染後に免疫が上がってきて、上がりきらないうちに打つよりは上がりきってからの方がよいので、1ヶ月以上あけた方がよい。今のワクチンも2、3ヶ月すると効果が大幅落ちる。だから、そういうことを考えれば自然感染しても、1ヶ月から3ヶ月くらいでいいのではないか。BA5に置き換わってから、2回目罹る子が増えた。一番間が短かった子は、1ヶ月ぐらいで2回罹った子もいる。5月に罹って6月だから、BA5には前の免疫では効かない。

[教育長]

国は感染者数の公表を見直すと言っているが、医師会の方では何かそういう動きはあるのか。

[委員]

医師会には話は来ていない。

《教育総務課長の報告》

令和4年度市町村教育委員会研究協議会の開催について

《教育総務課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《学校教育課長の報告》

令和4年度長崎県学力調査及び令和4年度全国学力調査・学習状況調査の結果について

《学校教育課長の報告に対する質問・意見》

[委員]

成績の部分の算数、数学、国語の点数についてであるが、よく言われるのが、遊びで自宅においてメディアを使う時間と関連するのが、1番が算数、数学で2番が国語と言われている。諫早市ではメディア使用時間との関連を調べる予定や、アンケートをとる予定があるのか。また、勉強時間も時間が少なくなっているということは、その他にしていることが増えているということで、スマホが関係あ

るかと思うが、その相関を調べる予定はあるのか。

[学校教育課長]

今のところ相関関係までは考えてはいないけれど、各学校ではスマホ使用について、アンケートを取っているところもあると思う。個人的には、コロナ禍でもあるので、おそらくSNSと他の家庭学習などとの関わりがあると考えている。

《生涯学習課長の報告》

令和5年以降の成人式の名称について

《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

その他

教育総務課長補佐

9月定例教育委員会の日程について説明

16時40分閉会